

おほどものすくねやかもち  
大伴宿禰家持、紀女郎に贈る歌一首

七七五番

鶉鳴く うづらな 故りにし郷ゆ さと 思へども おも なにそも妹に いも  
逢ふ あ よしもなき

きのいらつめ  
紀女郎、家持に報へ贈る歌一首

七七六番

こと<sub>で</sub> 言出しは た 誰が言なるか こと 小山田の苗代水の を  
なかよど やまだ なはしろみづ  
中淀にして